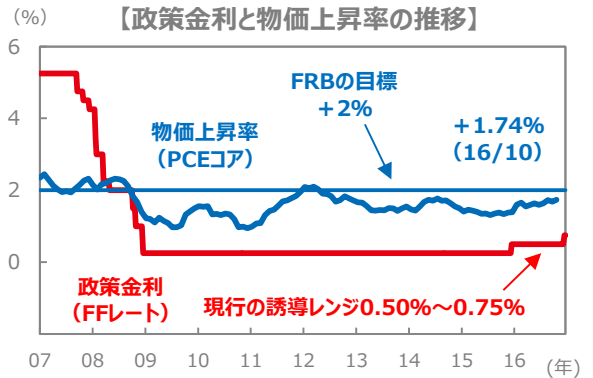


今日のトピック 米国の金融政策（2016年12月） 1年振りの利上げ、政策金利見通しを上方修正

ポイント1 政策金利を0.25%引き上げ 経済見通しに対するリスクは均衡

- 12月13日、14日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%引き上げ、0.50%～0.75%とすることを、全会一致で決定しました。利上げは昨年12月以来1年ぶりのことです。
- 声明文によれば、「経済は物価安定の下で緩やかな成長を維持し、労働市場はさらに力強さを増す」見通しです。この見通しに対する「リスクは上振れと下振れで概ね均衡」と評価。以上の経済情勢を踏まえ、委員会は利上げを決定しました。



(注1) FFレートは2007年1月5日～2016年12月14日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年10月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 政策金利予測を上方修正 17年は年2回から3回の利上げへ

- 会合後に公表されたFOMC参加者の経済予測によれば、17年の利上げ回数が前回の2回から3回に引き上げられました（18年は3回で据え置き）。
- 実質GDP成長率の予測値については、16年、17年が小幅上方修正、失業率は下方修正となりました。小幅修正だったことから見て、おそらくトランプ次期大統領の経済政策の影響は、織り込まれていないと考えられます。一方、エネルギー、食品を除いたコアの物価上昇率の見通しは、据え置きでした。

【米連邦公開市場委員会（FOMC）参加者の経済見通し】

項目	開催月	2016年	2017年	2018年
GDP成長率	12月	1.9	2.1	2.0
	(%)	9月	1.8	2.0
失業率	12月	4.7	4.5	4.5
	(%)	9月	4.8	4.6
物価上昇率	12月	1.7	1.8	2.0
	(%)	9月	1.7	1.8
FFレート	12月	0.6	1.4	2.1
	(%)	9月	0.6	1.1

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。
(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 物価の落ち着き等から、今後の利上げペースは緩慢となる見通し

- 利上げそのものは市場の予想通りでしたが、FOMCメンバーによる政策金利見通しが上方修正されたため、米国の債券相場、株価は急落、為替市場では米ドルが主要通貨に対して大幅に上昇しました。特に政策金利の動向を反映する2年債利回りは、09年8月以来となる水準まで上昇しました。
- 次期大統領の景気対策の効果が表面化するにつれ、米経済の成長ペースは速まる見通しです。ただし、ドル高の影響等から物価は抑制されると見られることから、利上げペースは緩やかなものにとどまると予想されます。

ここもチェック! 2016年12月5日 堅調を維持する米国の雇用統計（2016年11月） 2016年12月2日 「トランプ次期政権」の骨格は？（米国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。